

「子ども会活動の『蚕宮城』伝承活動の取組」

1 学校名

西之表市立住吉小学校

2 学年・人数

小学1年生から中学3年生（各子ども会単位の人数 10人程度）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

平成29年1月 8日（日） 9：00～11：00 各集落公民館

（2）発表の日時・場所

平成29年1月14日（土）15：00～17：00

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

蚕宮城（このみやじょう）

（2）由来

種子島の各地域で実施されている小正月行事である。蚕のまゆににせた四角に切られた切り餅をやなぎやコヤスギの小枝にさし，門木や家の中の柱に飾って蚕の豊作を祝うことが名前の由来になっている。

（3）構成等

1月14日の夕方から夜にかけて行われる。子供たちは，蚕宮城の歌を歌い，門ごとに祝って，祝い餅をいただく。最近では，祝い餅の代わりにお菓子や果物，寸志などをいただくことが多い。前年に不幸のあった家庭や門松がない家庭には回らない。集めた祝い餅などは，子供の人数に応じて分配していく。

子供たちの持っている「てくてく棒」は，タブノキで作る。樹皮をはがし，火で焦がしたり，模様を入れて炭で黒く塗ったりして作る。タブノキは，昔から神の依り木として大切に扱われてきた。地面をたたいて音を発することによって，悪魔祓いや魔よけの効果があるとされている。

5 保存会や地域との連携の具体

地域の子ども会単位で活動し，準備や指導等は，保護者が中心となっていく。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

活動の様子等，伝統的な行事として学校便りや学校のブログ等に掲載し，広報を行った。

7 取組の様子



子供たちが祝い歌を歌う様子



「てくてく棒」を作る様子

8 参加児童・保護者・教員の感想・意見

【児童】

各家を回ってお礼を言われたり，お菓子をいただいたりするので楽しい。長い時間をかけて回るので疲れるが，終わったときはやり遂げた気持ちでいっぱいになる。

【保護者】

子供たちが回っていくごとに出迎えていただいたり，祝い餅やお菓子をくださったたりし，感謝している。

地域の伝統行事であり，全て各地域の子ども会で運営していることから，これからも継続していけるよう努力したい。

【地域担当職員】

地域の伝統行事にふれ，地域の中で子供たちが育っていることを感じる事ができた。地域の中での子供たちの活動や保護者の関わりを知るよい機会になった。